

春の経済教室の記録

1 日時：3月27日（土）14：00～16：00

2 場所：ウェブ上オンライン

3 参加者：54名

4 プログラム：以下のように進行した。

14：00～14：10 開会挨拶と趣旨説明

14：10～14：53 講演①「経済を教える－教科書と現実のギャップ－」

篠原 総一（経済教育ネットワーク代表）

コメンテータ（東京都立農業高等学校 塙枝里子先生）との質疑

14：53～14：58 休憩

14：58～15：30 講演②「金融に関する教科書記述と現実のギャップ」

野間 敏克（同志社大学政策学部教授）

コメンテータ（大阪府立三国丘高等学校 大塚雅之先生）との質疑

15：30～15：35 休憩

15：35～16：00 参加者による討論と総括

5 内容の概略

(1) 主催者挨拶と趣旨説明

- ・東京証券取引所から以下の挨拶と紹介があった。
- ・東証での教員向け、生徒向けの紹介および8月13日、16日にオンラインで経済教室開催予定の紹介。
- ・オンライン授業やセミナー、メルマガもあることの紹介。

(2) 春の教室の開催の趣旨説明

- ・進行役の新井先生から以下の趣旨説明があった。
- ・新学習指導要領のスタートがきっかけであること。
- ・新しい経済の動きについてゆけない教科書の現実を埋めなければいけないこと。
学ぶ先生も教える教師も、現実と教科書のギャップをうめる必要がある。
- ・新しい動きの例（交換のしくみ、働き方、生産、貿易、金融、政府、情報）は多くあり、篠原講演で詳細は聞いて欲しい。
- ・ギャップを埋めるには、エコノミストが問題整理をして、現場への手がかりを提供すること。本日の会はその試みの一端であること。

講演①「経済を教える－現実と教科書のギャップ－」

篠原 総一（経済教育ネットワーク代表）、コメンテータ：塙枝里子先生

① 問題意識は以下の通りである。

- ・新学習指導要領では、「資料やデータを読み取り、その結果を使って考えること」を目指すことになっているが、この教育を進める上では、教科書は2つの問題を抱えているように見える。

- ・第1：市場、金融、貿易、労働、環境など、多くのパートで現実の経済は大きく変わっているにも関わらず、教科書では20年前、30年前の記述を残している部分が多い。そのため、(1)生徒が使う資料やデータが過去の経済に関するものになってしまうケースが少なくない。そして、(2)生徒が教科書を通して身につける「経済の見方・考え方」が、過去の経済を説明する「古い経済学」の考え方に偏りがちである。
- ・第2：生徒を「学んだ結果を使って課題について考える」プロセスへ誘導していくためには、教科書は「何をどのような順で学んでいって欲しいのか」というメッセージが明確に伝わるような構成になっていて欲しい。ところが本日の各論で取り上げる(教科書の貿易についての解説)でも指摘するように、各項目で教える内容も、項目で学んだことを使って次の課題について考えるように誘導する「項目と項目のつなぎ」も無視した教科書が多いように見受けられる。

② では、現実経済と教科書のギャップをどのようにして埋めるのか。

- ・現実経済の変化は、大きく、早すぎる、しかも、いつも進行中であるため、教科書や資料集、そして現場の教員がそのギャップを埋めることは簡単ではない。しかし、生徒が観察するのは、過去の経緯ではなく現在の経済である。生徒にとって10年前の経済ですら歴史でしかない。
- ・そこで今できることは、経済教育にかかわる専門家が論点を整理し、教育関係者(主として教員)がそれを授業に活かす工夫を続けることではなかろうか。
- ・その意味で、「経済教育ネットワーク」は、エコノミストと教育実践者のコラボレーションを柱とする団体であるため、今の大きな教育課題に貢献できるものと思っている。その際、おそらく頼りになるのは、これまでのオールドファッション経済学でなく、ゲーム理論、行動経済学、マッチング理論などの新しい経済学の考え方ではなかろうか。

③ 経済の変化とはどのようなものか、大まかに整理しておきたい。

- ・もちろん、これまでも、どの教科書でもグローバル化、情報化、人口減少などを起因とする変化に触れているが、教科書のメインパートにそれを反映したものは見当たらない。
- ・この10年、5年、社会のデジタル化が進む規模とスピードは、教育現場でも無視できない。とくにコロナ禍を経て、これまでの変化が加速し、さらに表に出てくるはず。
- ・それらの変化のうち、教科書と関連するような変化だけを整理しておく。[()はその対応、コメント]

交換の仕組み	<p>ネット市場、プラットフォーム型消費市場のひろがり (教科書での独占禁止法の取り扱い。ネット型市場の情報の独占・寡占のメリット・デメリットの見直し)</p> <p>電子マネー(メリット、デメリットに注意)</p> <p>マッチング市場(例:臓器のマッチング 売り手・買い手の情報がみえる化、従来の市場のような価格を通じた需給調整ではないという特徴がある)</p>
--------	---

働き方	リモートワーク、ギグワーク、賃金の決め方の変化、従来型の労働と新しい労働が混在する労働市場
生産	サプライチェーン、プラットフォーム型生産のひろがり（従来の経済学では、生産のしかたは、ブラックボックスとして触れてこなかった）
貿易	サプライチェーン、貿易の政治化（これも大きな変化である）
金融	フィンテック、政策（特に政策は変化している。これは野間講演で扱う）
政府	役割、政策

④ 教科書と現実経済のギャップの一例として、国際経済、とくに貿易の教え方について触れてみる。

- ・まず、教科書では、「国際経済」の単元で何を教えるのかが整理されていないため、生徒は学びに必要なメッセージをくみ取れない（というよりも、教科書からのメッセージがあるように見えない）

- ・教科書の目次は次のようになっている。（一般的な教科書では）

- (1) 自由貿易論（リカード）、保護貿易（リスト）

- (2) 国際収支、為替レート

- (3) 国際経済体制

制度の変遷の歴史、経済体制の編成の歴史

- (4) 現在の特徴：グローバル化

- ・篠原先生は、これに対して、次のような「ストーリー」が描ける構成をすすめられた。

- (1) 財・サービスの国際間の分業と交換の仕組み

貿易の実態とその理由

実態：リカード的貿易とサプライチェーン型貿易

リカードの貿易論はその一部

市場の失敗

従来の「保護貿易論」

実際には重要度の高い市場の失敗：政治の貿易市場への介入

- (2) 資金の国際間の交換（国際金融）

經常収支（マクロ）、ミクロの国際金融取引の仕組み、（為替レートも）

市場の失敗（国際金融危機なども）

- (3) 市場の失敗への対応

国際機関、国際協力、地域連携の（失敗の）歴史

現在の工夫

⑤ 最後に、各論の各論として、リカードの比較生産費説（比較優位説）についてコメントされた。

- ・教科書には書かれていないため、中高の先生方には驚きの発見かもしれないが、この理論には「どの生産要素も、国境をこえることはない」という前提条件がある。実は、リカードの理論を現代的に理解しなおすと、この点がキーポイントになる。リカードが比較生産費説の考え方を発表したのは1817年、マルクスの資本論（1864年）より半世紀前であるが、当時、主な生産要素は土地や労働で、いずれも国境を超えることは考えられなかった。

- ・リカード比較優位説の真のメッセージは、

土地、労働、機械などの生産要素は国によって、多い、少ないのばらつきがみられる
隣の国の土地が使えれば、もっと農産物を供給できるのに、、、
隣の国の工場や機械が使えれば、もっと衣服の供給を増やせるのに、、、
といった悩みを解決するのが最終財の自由貿易だ、というわけである。

- ・教科書でおなじみの結論：各国の生産要素の存在量の比率が、比較優位の構造を決める。
- ・教科書で触れていない、もっとすごい結論
各国が互いに最終財の貿易をしておけば、国境を超えることのない他国の生産要素を有効に利用しあうことができる。
- ・ひるがえって、現代経済では、生産要素は、(1) かつての三要素に限らず、無形資産（技術知識、生産・経営の仕方などなど）が重要性を増すと同時に、(2) 生産要素の多くが簡単に国境を超えられる時代になった。物理的な生産要素や部品すらも簡単に国境を超える。労働ですら、まだ一部だが、デジタル移動する時代である。そのうえ、部品も簡単に移動できるようになったため、部品ごとに細かな比較優位構造ができていった。
- ・こうして、新しい貿易は、企業が主体となってサプライチェーン（供給網）のなかで複雑な輸出入構造を作り上げていった。たとえば、自動車の生産では、平均して4万もの部品が使われているというが、それぞれが日本、中国、東南アジアを中心に世界各地で生産され、それを組み合わせて、最終的に最も安く生産できる仕組みを作っている。だから、リカードのように要素がすべて日本国内なら、輸出の付加価値はすべて日本で生まれるが、いまは日本の輸出額のうち、3～4割は外国で生み出されている。
- ・メリット：外国の生産要素を直接利用する現代の貿易は、圧倒的に生産性を上げ、GDPを押し上げている。
- ・デメリット：一方、サプライチェーン（供給網）が目に見えないほど複雑であるため、その一か所でも切れてしまうと、全体がストップしてしまう、という弱さがある。自然災害が原因で世界のどこかの工場が閉鎖、米中対立の中で政治的に供給網の一か所を止める、といったリスクである。ここに、政治介入という市場の失敗が起きやすい構造的な問題がある。
- ・このようなことを意識した貿易の教え方に持っていきたいものである。

★塙先生によるコメントと質問

- ・篠原先生の話聞いて、二つの点が印象的だった。
- ・一つは、プラットフォーム型消費・生産が重要になっているということで、価格以外の要因で消費行動が決まる時代になっていることである。
- ・もう一つは、マッチング市場で、臓器提供などは概念・理論とともに「公共の扉」の箇所では扱えるのではと思った。
- ・貿易の教え方に関しては、前提条件があるという指摘は、価格機構も同じではないかとも思う。

質問

- ・理論と社会事象の関係で、データや理論をどのように扱うか？具体例があったら教えて欲しい。時間の関係もあるので、後ほど回答をいただければと思う。

講演②「金融に関する教科書記述と現実のギャップ」

野間 敏克（同志社大学政策学部教授）、コメンテータ:大塚雅之先生

以下の内容を語りたい。中心は、金融政策の基本的考え方 & 波及経路が教科書と現実の違いである。語るのは、

中高の教科書と現実ギャップ

日銀の金融政策手段について（固定的ではない、時代、国）

波及経路が現実はどうなのか(教科書では、こう書かざるを得ない部分もあるが)という内容である。

1、中高の教科書に書かれている内容

(中学) オペレーション、資金、貸出金利、お金増えると景気が回復する

(高校) 通貨の役割、マネーストック、コールレート、政策金利、利子率を操作、通貨量も操作？

・これらの記述と現実のギャップはどこにあるのか？次の5つが浮かぶであろう。

- ・そもそも金融政策は景気安定化に有効なのか？
- ・金融政策はどのように実施され、どのような手段があるのか？
- ・教科書の資金やレートは、何を操作したいのか？
- ・操作したものがどのように景気や物価につながるのか、貸出増加が鍵か？
- ・金融政策の副作用はないのか？

以下、順番に見てゆく。

2、日銀の金融政策手段どう変化しているか

(1) 中心はオペレーション（年8回の金融政策決定会合）

- ・流れは単純に示せる。 図：日銀← →オペ対象先金融機関
- ・誰を相手に、どんな資産を売却するのかなど、複雑化している。
→日本銀行の手段・・・金融手段の多様性（日銀HPから）
- ・オペは多様だが、中心は国債（日銀資産の9割は国債）
- ・売買の方法には二つある。
 - ①国債買い切り アウトライト取引 永続的オペ 保有したまま
 - ②国債現先オペ（売戻条件付き） 一時的オペ（3か月）
- ・現在はお金を出しっぱなしの①が多い。国債には期間（短期～超長期）まで多様である。
- ・ここでは、誰からどんな価格で国債を買うかが問題になる。

①国債の価格と利子の関係をまず理解したい

国債の価格が安い＝国債の利子率が高いという関係を理解することが大事

②国債の買いオペは入札方式

エリートの金融機関に、申し出てくださいと言う

銀行は高く売りたい、日銀は安く売りたい

自由な金融市場で、国債の需要供給を反映した市場価格によるオペ

(2) とても大事な日銀当座預金の役割

①日銀と銀行のバランスシートを理解したい

日銀の資産と負債の関係、民間の資産と負債の関係理解が大事

②日銀が買いオペをするとバランスシートが変化する

③日銀当座預金は、日銀と銀行とのあらゆる取引で使用

④日銀当座預金は、銀行間の取引で使われる

⑤日銀当座預金＝準備預金（法定準備＋超過準備）

(3) 準備率操作は使われなくなった

- ・1991年10月に引き下げて以降、変更なし（現代中国などでは準備率操作は意味があり強力な手段として使っている）
- ・超過準備があるから（資料スライドの図を参照）

(4) 公定歩合操作はなくなった

- ・公定歩合<コールレート（銀行間金利）だった
- ・2001年から補完貸付制度（基準割引率および基準貸付利率>コールレート）
- ・現在は、コールレートの方が低い（日銀から借りることは少なくなっている）

3、金融政策の波及経路

(1) 伝統的な考え方は構造型（段階的）アプローチ

- ・以前は、日銀の政策手段→目標→目標→最終目標（物価の安定など）という考えのもとでおこなっていた
- ・現在は、金利経路（コールレートから長期金利へ）
短期国債買い入れ→コール市場で低下→金融市場を通じて、長期金利の低下へ
- ・量的経路
 - ①日銀が供給する貨幣＝マネタリーベース
 - ②マネタリーベースが増える＝信用創造
 - ③日銀と銀行が合わさって供給する貨幣＝マネーストックかつては区別しなくてよかったが、現在は区別が必要

(2) 様々な波及経路が登場

- ・王道は、金利から企業投資へ影響するという経路
- ・金融市場の発達で、資産価格経路が重要になる
- ・株や土地での運用することで資産効果（消費や投資を増加）が注目されてくる…フィナンシャルアクセラレーターと称されている
- ・グローバル化で為替経路も登場
これら以外にも様々な経路が考えられてきている

(3) 近年の発想は誘導型アプローチ

- ・複線的に考えて、経路の間にブラックボックスあると考えてきている

- ・経済構造がわかっているから、わからないに変化
- ・これら様々な情報変数を通じての変化は、不透明、不確実、流動的であり、それをそのまま教科書にかけない。

4 まとめ

- ・ギャップについての Q&A を最後にまとめとする。
- ・そもそも金融政策は景気安定化に有効なのか？
→90年代行の緩和効果には疑問（引き締めには有効かも、今は検証できない）
- ・金融政策はどのように実施され、どのような手段があるのか？
→買いオペが中心
- ・教科書の資金やレートは、何を操作したいのか？
→コールレートから金利、貨幣量に
- ・操作したものがどのように景気や物価につながるのか？
→貸出増加が鍵から様々な経路へ
- ・金融政策の副作用はないのか？
→金融緩和の継続は、バブル、リスクがある

★大塚雅之先生によるコメントと質問

- ・二つの点に関して感想をもった。
 - ①構造的説明ばかりを教えているが、複雑さを初めて知った。
 - ②政策を行っている人間もブラックボックスを前提としていること。これは生徒に伝えてもいいのではないか。
- ・質問は二つある。
 - ①現実と理論のギャップを埋めるためにはどの経路をおしえたらよいのか？
 - ②今の緩和の状態の問題ないのか？ である。

★参加者による討論と総括

- ①篠原先生の回答（塙先生の質問への）
 - ・理論と現実の順番はケースバイケース
 - ・理論とは仮説である。複雑で数多くある要因のうち、コアになるものだけ取り上げて（たとえば、需要と供給を決めるとき、価格だけ取り上げて、他の要因は無視するように）、現象（たとえば価格がどう決まるか）を説明するようなもの。だから、どちらが先か、と言われると、私には「生徒が分かりやすい方」としか答えられません。ふつうは、現象から入る方が中学生や高校生には、そして先生方にも、分かりやすいのではないのでしょうか。
- ②臓器移植のマッチングは日本では使われていないのはなぜ？（参加者からの質問）
 - ・腎臓移植、肝臓移植、肺臓移植など、移植は行われていますが、法的に許可されているのは、価格をとおした移植ではなく、あくまで病院を介したマッチングでしょうか。
 - ・一般に、マッチング市場がもし禁止されているなら、倫理面での抵抗があるからだと思いますが、欧米

では、この種のマッチングはかなり盛んになっています。

- ・倫理面での許可条件をどう考えればよいのか、経済学者だけでなく医学者などにも、よく分からない問題ではないでしょうか。

③野間先生の回答（大塚先生からの質問への）

- ・波及経路については、企業投資…量について説明した方がいい（中学校）
- ・高校は、資産経路と為替経路まで理解できるはず

④ゼロ金利の長期化や日銀が株を買っていることについても補足してほしい（篠原先生から野間先生へ）

- ・実際は、マイナス金利でも変動している。
お金が借りられてうれしい企業と利益の上がらない銀行というプラスとマイナスが同時に存在
円安になり輸出企業が潤っている部分もあるのではという日銀の評価もある。
- ・ETF＝投資してもらった資金を株で運用するやり方（すべての株を買うようなもの）である。
日本銀行は、リーマンショック以降、これを買っている。
日銀が買ってきて、影響力を持ちすぎていて、行動を変えるに換えられない。
ETFをやめていこうという傾向にある。国債は満期があるが、株はないからである。

⑤関連して、MMTについても触れて欲しい（新井先生から）

- ・MMTとは、国債を貨幣供給できる国は買っていいというものだが、どこに理論があるかわからないと私も篠原先生も考えている。
日銀が買い上げる国債が減ってきたが、コロナで国債発行は最近増えた。それは日銀が購入することになるだろう。
ギリシャにならないのは、日本で買って来たから（外国が買ったならシビアに見極めるので暴落？）

⑥マクロ金融政策を高校生に教えることは必要なのか？（塙先生から）

- ・遠い世界だが、株価や財政赤字には関心があるので、金融政策に注目させると近くなるのではないかと
思う。インフレが起きていたら、もっと関心をもつはず。（野間先生）
- ・アルバイト体験から、銀行手数料が上がっていると感じている高校生はいる。（塙先生）

⑦日銀のバランスシートの話があったが、共通テストで出題されている。どこまで教えたらいの
だろうか、ヒントを。（新井先生）

- ・これから生活する上で、バランスシートを理解することは必要。
借金と貯金をどちらに書くのか、教えてもよいのではないか。
ライフプランを立てる授業（家庭科）でやるのもいいかも。（野間先生）

⑧パネリストから最後に一言いただきたい。（進行役から）

- ・篠原先生
本日のわたくしの話は、授業をどう作るかということではなく、教科書を作ったり、あるいは経済教育
の枠組みを考えている人たちへのメッセージだった。その意味で、先生方に役に立ったかはなはだ疑問

ではありますが、先生方も、できる範囲で私が指摘したようなポイントを意識した授業作りをしていただきたい、というのが私のお願いです。

また、経済教育ネットワークでは、このような研究を進めていますが、その成果をおりおり皆さんに伝えていきたい。夏の経済教室では、行動経済学などの新しい経済学の成果を経済教育に落とし込んでいくヒントを紹介したいと思っています。

- ・野間先生

金融政策では90分×15回かかる内容からピックアップした。
どこを抑えておくべきか、それを発信させてもらった。

- ・埴先生

本日の話は参考になった。これから共通テストの「公共」のサンプル問題も検討したい。

- ・大塚先生

教科書と現実のギャップにあらためて気づいた。高校生は現実を教えてもらうのが好きなので、これからの授業で取り上げてゆきたい。

記録と文責：杉浦（都立井草高校）

以上